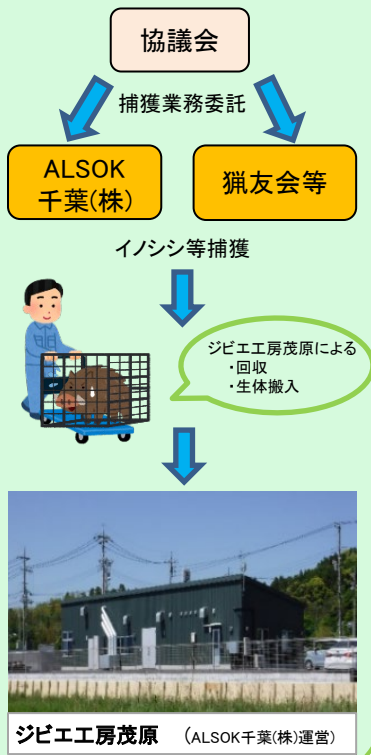


捕獲個体処理問題をジビエ利用につなげる取組(千葉県茂原市)

- 茂原市鳥獣被害防止対策推進協議会は、平成28年にALSOK千葉(株)及び猟友会にイノシシ等の年間捕獲・駆除を業務委託
- ALSOK千葉(株)が食肉処理加工施設「ジビエ工房茂原」を建設し、捕獲個体をジビエ利用
 - ・ 県内従事者が捕獲した個体を現場まで回収に向かい、施設に搬入することで、従事者の捕獲個体の処理負担を軽減
 - ・ 捕獲従事者は補助金申請に必要なだった捕獲個体の写真撮影及び記録作業が不要となり、事務的負担が軽減

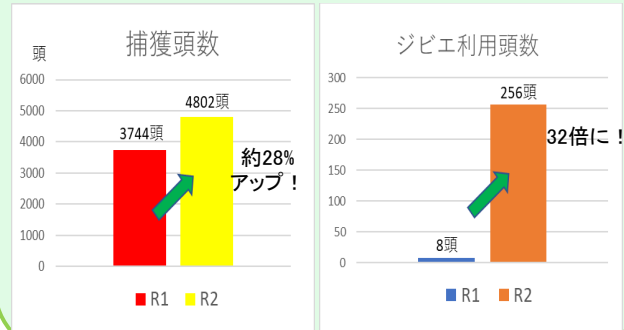
取組内容

- ALSOK千葉(株)の職員や市内猟友会員を茂原市の有害捕獲従事者として位置付け、イノシシ等の年間捕獲・駆除業務委託を行い、継続的な捕獲を実施
- ALSOK千葉(株)が令和2年7月にジビエ工房茂原を建設。委託業務で同社や猟友会員等が捕獲したイノシシ等をジビエ工房茂原に搬入し、ジビエ利用を推進
- ジビエ工房茂原が県内市町村の従事者と事前に契約書を交わし、従事者から回収依頼の電話を受けることで現地へ回収に向かい、生体搬入
- 搬入した個体については、ジビエ工房茂原の職員が捕獲個体の写真を撮影し、記録

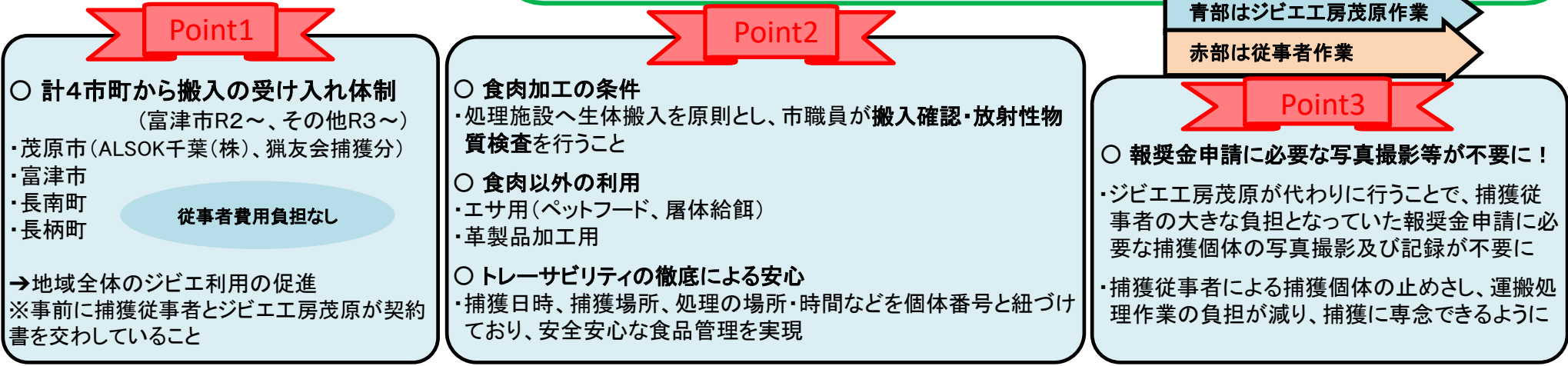


成果

- 有害捕獲とジビエ利用の一体性確立
- 捕獲従事者には処理労力や回収費用の負担が発生しない
- 処理負担軽減により、捕獲従事者は積極的な捕獲が可能
- 捕獲頭数が増加
(R元年:3,744頭 → R2年:4,802頭)
- ジビエ利用頭数の増加
(R元年:8頭 → R2年:256頭)



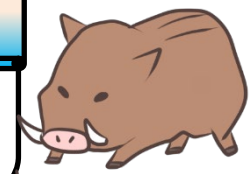
捕獲個体処理問題をジビエ利用につなげる取組(千葉県茂原市) ～ジビエ工房茂原への搬入スキームについて～



回収条件

契約書締結後であり、

- ①生体
- ②体重制限無し
- ③病気・怪我無し(目視)



取組による成果・効果

- 民間企業と行政が協力することで、有害捕獲とジビエ利用の一体性を確立
- 従事者の労務軽減により、捕獲頭数が増加
- ジビエ利用率が格段に増加し、捕獲個体の資源としての有効活用化
- ジビエ利用率が増加することで地域おこしに